

地震一口メモ No. 136

大阪府で発生する長周期地震動③

～備 え～

前回の一口メモでは、内閣府の「南海トラフの巨大地震による長周期地震動に関する報告」をもとに、南海トラフの巨大地震が発生した際、大阪府の大部分で強い長周期地震動の揺れ（一部が長周期地震動階級4段階の階級4）が発生し、長くて5分程度の揺れが継続するとされていることを紹介しました。

今回は、長周期地震動に対する『備え』について紹介します。

長周期地震動では、高い建物の高層階（概ね10階以上）が被害を受けやすいとされます（写真）。平成23年（2011年）東北地方太平洋沖地震が発生した際、震源から約700km離れた大阪市の高層ビルではエレベーター停止による閉じ込め事故や内装材・防火扉が破損するなどの被害が発生しています。

高層階では、家具類の転倒・落下に加えて『移動』が発生しやすくなるため、はさまれたり、ぶつかることによる負傷や避難障害が生じる可能性があります。個人で実施できる事前対策には以下のようなものがあります。



写真 同じ高層建築物の2階（左）と24階（右）の被害状況（内閣府HPから引用）

- ・家具類が転倒・落下・移動しても障害とならないレイアウトにする（下図の①）。
- ・吊り下げ式の照明等はワイヤーなどで大きな揺れを防止する（下図の②）。
- ・頻繁に移動させる必要がある家具類は、キャスターをロックし、壁と着脱式ベルトなどで連結する（下図の③）。
- ・頻繁に移動しない家具類は、キャスターに下皿を敷き、転倒防止対策を実施する（下図の④）。
- ・家具類は、フローリングは耐震マット等、カーペットは滑り止めマット等をひいた上に設置する（下図の⑤）。

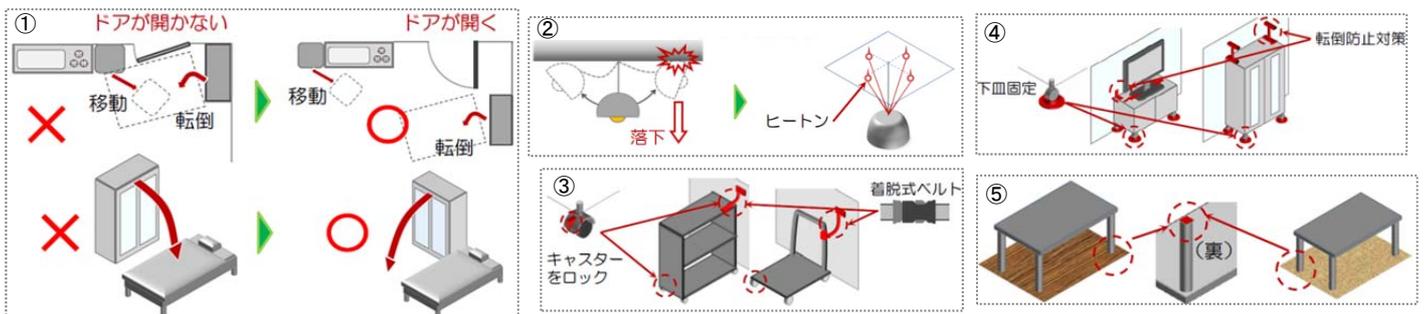


図 家具類の転倒・落下・移動の防止対策（消防庁HPから引用）

長周期地震動による揺れが発生したときにとるべき行動は、通常の地震の揺れが発生したときと同じです。緊急地震速報を見聞き、あるいは、揺れを感じたら、重量物から離れ、あわてず安全スペース※へ退避して身の安全を図り、揺れがおさまるまで様子を見ましょう。

※なるべく家具類を置かない寝室、廊下、ミーティングエリア等

コラム

長周期地震動による揺れは、超高層建築物の建設が技術的に可能となった現代において顕在化し、問題視されています。したがって、長周期地震動による揺れを経験した人も少なく、なじみも薄いため、“実際にどういうものなのかわからない”と感じている人が多いと考えられます。

未知の地震動に対して関心を持つ、または、不安の増大を抑制するには、視覚的・体験的な経験が効果的であるとされています。

気象庁のホームページに長周期地震動に関するページ (<http://www.data.jma.go.jp/svd/eqev/data/choshuki/index.html>) があります。このページでは、長周期地震動や気象庁の発表する長周期地震動階級（地震一口メモNo. 134をご覧ください）毎の揺れの大きさを身近に感じ、日頃の備えに役立てていただくための動画を公開しています。

動画の全編『長周期地震動ことはじめ～天災は高いところにやってくる?!～』（約6分）は、非常にわかりやすい内容になっています。

『長周期地震動ことはじめ～天災は高いところにやってくる?!～』

全編(約6分)



気象庁作成 長周期地震動啓発動画の一部を掲載

http://www.data.jma.go.jp/svd/eqev/data/choshuki/choshuki_eq5.html